

資源管理協定の中間検証

自己評価年月日：令和7年3月 13日

自己評価作成者：協定代表者

＜基本情報＞

協定の情報	協定の名称	神奈川県横浜地区におけるマコガレイに関する刺網漁業の資源管理協定		
	対象の水域	神奈川県地先海面		
	対象の資源	マコガレイ（資源管理方針別紙3-2）		
	対象の漁業	刺網漁業		
	協定の有効期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで		
検証の日程等	中間検証（有効期間の2分の1）	有効期間終了時の検証	備考	
	令和6年度	令和8年度(予定)		

＜取組の概要と評価（対象の資源ごとに作成）＞

対象の資源名		マコガレイ（資源管理基本方針別紙3-2）						
対象資源の総漁獲量に対する 協定参加者の漁獲量の割合(令和4年)			対象資源の令和４年総漁獲量4.4トンに対し、協定参加者による漁獲量は0トンである。					
資源管理の 目標と取組 内容	資源管理の目標		「神奈川県周辺海域における重要水産資源の動向」において判断される資源水準を令和13年度末までに、中位以上に回復させることを目指す。					
	取組内容		火曜日および土曜日を休漁とする。 全長16.5cm以下のマコガレイの水揚げを禁止する。 刺網の目合は80mm以上とする。					
	その他の管理措置							
履行の状況 ○:全参加者が履行 ×:上記以外		単位	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	備考 履行の状況は、マコガレイ資源を管理対象とする1地区の刺網漁業10隻について、履行確認期間であるR4年4月～R6年12月間で集計。 協定期間内の操業はほとんど行われていない。
	履行状況	-	○	○	取組中			
	参加隻数	隻	10	10	10			
	水揚げ実績	トン	0	0	0			
資源状況		東京湾のマコガレイの漁獲量は1980～90年代にかけて激減し、2000年代以降も緩やかに減少した。横浜市漁協柴支所の漁獲量は2017年以降さらに減少して低迷しており、水準は「低位」と判断した。2023年の漁獲量は若干上向いたが、2024年には半減し、過去５年の推移から動向は「減少」と判断した（R7.1月公表令和6年神奈川県周辺海域における重要水産資源の動向より）。						
取組の評価		取組の効果が継続する ・ 効果はあったが改善が必要である ・ 効果は認められず改善が必要である ・ 想定外の外部要因により効果は判定できない (外部要因を考慮した取組の改善が必要)						
評価内容		漁獲実績がないため、効果の検証はできない。						
取組の 改善点等								

＜資源管理協定全体の評価及び改善点等＞

評価結果	取組の効果があり継続する・効果はあったが改善が必要である・効果は認められず改善が必要である・ 想定外の外部要因により効果は判定できない (外部要因を考慮した取組の改善が必要)
評価内容	協定の期間内に当該漁業による出漁はあったものの、管理対象種の水揚げ実績はなかった。東京湾のマコレイ資源水準・動向が低位・減少と判断される中、多角経営的な選択によって別の対象種へ狙いを転換したことが影響している。 このことから、管理措置の効果評価はできず、協定期間満了までに漁獲がわずかであれば、協定延長をしない事を含む検討の必要がある。

＜資源管理協議会等による検証＞

検証年月日： 令和7年 3月 28日

検証結果	取組の効果が継続する・効果はあったが改善が必要である・効果は認められず改善が必要である・想定外の外部要因により効果は判定できない (外部要因を考慮した取組の改善が必要)
検証内容	本資源管理協定の対象資源の水揚げ実績が無いことから、資源管理措置の効果は検討できない。貧酸素水塊など漁獲圧以外の要因により資源水準が低位で推移していると考えられ、協定期間内にほとんど操業が行われていない実態から、今後協定が終了する年限まで経過を観察し、現状と変わらないようであれば協定の終了も検討するべきと考えられる。